

平成25年度事業報告書

学校法人 桐蔭学園

第1 法人の概要

1 設置する学校・学部・学科、入学定員・学生数(生徒、児童、園児数)の状況等

(1) 桐蔭横浜大学(昭和63年度開設)

ア 大学院

法学研究科	(入学定員 12名 : 現員 21名)
工学研究科	(入学定員 30名 : 現員 38名)
法務研究科	(入学定員 50名 : 現員 79名)

イ 法学部

法律学科	(入学定員 180名 : 現員 729名)
------	-----------------------

ウ 医用工学部

生命・環境システム工学科	(入学定員 0名 : 現員 1名)
生命医工学科	(入学定員 40名 : 現員 165名)
臨床工学科	(入学定員 40名 : 現員 165名)

エ 工学部

電子情報工学科	(入学定員 0名 : 現員 3名)
---------	-------------------

オ スポーツ健康政策学部

スポーツ教育学科	(入学定員 80名 : 現員 380名)
スポーツテクノロジー学科	(入学定員 80名 : 現員 384名)
スポーツ健康政策学科	(入学定員 80名 : 現員 367名)

(2) 桐蔭学園高等学校(昭和39年度開設)

全日制課程

普通科	(入学定員 1,150名 : 現員 2,201名)
理数科	(入学定員 270名 : 現員 691名)

(3) 桐蔭学園中学校(昭和41年度開設)

(入学定員 550名 : 現員 1,262名)

(4) 桐蔭学園小学部(昭和42年度開設)

(入学定員 160名 : 現員 921名)

(5) 桐蔭学園幼稚部(昭和44年度開設)

(入学定員 70名 : 現員 109名)

(6) 桐蔭学園中等教育学校(平成13年度開設)

前期課程	(入学定員 160名 : 現員 509名)
後期課程	(入学定員 160名 : 現員 483名)
全日制課程	

注：上記の学部、学科及び現員学生数(生徒、児童、園児数)は、平成26年3

月31日現在のものである。

2 役員・教職員の状況

(1) 役員(平成26年3月31日現在)

理事長		平岩 敬一	
理事	小島 武司	理事	野坂 康夫
理事	廣江 健司	理事	萩原 啓実
理事	山城 崇夫	理事	園山 和夫
理事	榊原 滋	理事	樋口 徹
理事	長野 充	理事	佐藤 宣践
理事	間々田俊治	理事	澤本 敦
理事	平岩 敬一	理事	江藤 武俊
理事	田宮 甫	理事	石橋 克規
理事	上辻 孝雄	理事	江口 英彦
理事	吉田 勝明	監事	鈴木 松太郎
監事	南 増明	——	——

定数：理事 19名、監事 2～3名、任期は共に2年

(2) 平成26年3月31日現在の教職員数は、教員499名、職員172名

第2 事業の概要

平成25年度中の主要事業の概要は以下のとおり。

1 学園

(1) 桐蔭学園の事業推進

ア 創立50周年記念事業に向けた取り組み

創立50周年記念事業に向けては、今年11月1日に開催する記念式典の準備のほか、50周年を契機として学園施設の一層の充実を図るために、高校・中学総合グラウンド、総合体育館、クラブハウスの建設計画を推進した。また、桐蔭学園のマスコットキャラクター及び記念ロゴマークの作成を卒業生や在校生からデザインを募り、多くの応募の中から選定した。記念ロゴマークについては、ホームページ等での使用が始まったほか、Tシャツ等に使用された。この他、平成26年の年賀状に、50周年のマーク入りの年賀はがきを作成した。

イ ワーキンググループの活動

当学園が、創立50周年を迎えるに当たり、さらに、学園の新たな50年に向けた発展のために、学園におけるすべての制度、システムを見直すこととして設置した「桐蔭改革プロジェクトチーム」及び同チームの下に、それぞれの目的に沿った「ワーキンググループ」(以下「WG」という。)については、「ICT・WG」が、電子黒板を各学校に導入したほか、「職員研修WG」が、各種研修照会を発信し教員が積極的に参加できる道筋を作るなど教員のレベル向上に努めた。「施設管理WG」については、各学校施設の点検調査により、男子中学のトイレを改修(ウォッシュレット付きトイレ等)したほか、女子部緊急避難通路沿いの窓に飛散防止フィルムを張るなど学校施設の安全措置を講じた。

ウ 医用工学部の新実験実習棟の竣工

桐蔭横浜大学医用工学部の専門教育に必要な実験実習棟の老朽化に伴い、昨年度、新棟の建設に着工、基礎工学・基礎医学・臨床工学・微生物学・病理学など実習室等の最新施設が本年3月に完成した。

エ 英語村の開設に向けた取り組み

社会の国際化に対応した英語によるコミュニケーション力を身につけることを目的に、会話に伴う共通言語をすべて英語とする「英語村」を、平成26年度からの開校に向けた業務を推進した。

オ スポーツサポートセンターの設置に向けた取り組み

桐蔭横浜大学の強化スポーツにおける心理・トレーニング・栄養面のほか、医学的、科学的に研究をしてサポートしていくため、スポーツ教育振興本部にスポーツサポートセンターを平成26年度からの設置に向けた業務を推進した。

(2) 財政基盤の確立

改革方針の一つである経営の合理化については、施設物品、施設管理費、広告宣伝費等支出の再点検を行ったほか、公開入札によるオークション(品質を維持したままでの価格競争)システムの導入により支出の削減を図るなど財政基盤の強化を目指した。

(3) 校舎施設の整備

平成25年度の校舎施設、設備等の整備事業としては、中学棟トイレ改修工事、女子部乗用エレベーターリニューアル工事、幼稚部雨天用園児通路テント新設工事、サッカークラブハウス脇野外更衣用2連カーポート設置工事、売店2階に懇談会室を設置(トイレ新設を含む)工事を行った。また、設備以外の外壁・防水等修繕改修工事では、高校吹抜広場壁塗装、女子部3・4階テラス広場床防水改修工事、アカデミウム2階カフェ・ポロニアガラス屋根防水補修工事、中学棟西階段外壁工事、女子部2階ギャラリー天窓下壁面補修工事等を行った。

2 大学・大学院

(1) 入試について

大学全体として、入学志願者数を連続して伸ばしてきていたが、本年度は微減した。しかし、入学者数は微増し、全学部学科で定員確保ができた。オープンキャンパスの参加者数が、台風の影響もあって減少した。

(2) 教育内容の充実

教職課程の強化を学部横断で準備した。法学部は、警察官・消防官を目指す学生のために、予備校とも提携してカリキュラムを見直した。臨床工学技士、臨床検査技師の試験合格率がさらに向上した。

スポーツ健康政策学部は、新カリキュラムによる教育内容のより一層の充実を図った。

(3) 就職支援について

選定し直した就職支援業者によるカウンセリングが実施された。全体として、就職状況は上向きであった。医用工学部からは、資格修得により、医療・福祉関係の就職が増加した。スポーツ健康政策学部は、極めて高い就職率を達成できた。

法学部は、公務員、教員の数の向上が課題である。

(4) 法科大学院について

多数の法科大学院が、募集停止に踏み切る中、本学は、合格者数を僅かながら増やした。そのうち2名は本学法学部の卒業生であった。入学者数は、他校と比して相対的には健闘しているとはいえ、定員を大きく下回った。

(5) グローバル化対応

英語村の26年4月からのオープンを準備、ネイティブスピーカーとの会話が常時できるようにする。南京師範大学からの交換留学生の在学が決まり、交換留学が盛んになりつつある。また、華僑大学と、東アジア法律文化センターを共同設立した。このほか、桐蔭医用工学国際シンポジウム2013が開催され盛況のうちに終了した。

(6) 研究について

科学研究費補助金をはじめとした外部資金を導入し、成果をあげた。特許については、外部企業との間で実施許諾契約が締結され(1件)、収入が見込めることとなった。

(7) スポーツ活動について

スポーツ教育振興本部が中心となり、6強化部のサポート体制を充実させた。野球部は、全国大学野球大会ベスト8、関東地区大会初優勝、神宮大会ベスト4、サッカー部は、関東一部リーグ残留を果たすなど活躍した。

(8) 地域貢献・社会貢献

地域との交流、連携及び社会への生涯学習の提供の場として、昨年104講座を開催、地域の方を含め1,280人が参加した。また、近隣の小・中学生などを対象とした「おもしろ理科実験室」の開催では、24企画に1,500人の来場者があった。このほか、青葉区民まつり、あざみ野まつりなど、地域の6事業に学生と教職員が運営スタッフとして参加するなど地域・社会との連携を図った。

(9) 大学院の創設

スポーツ健康政策学部の大学院創設の準備を行った。

(10) 設備の充実

医用工学部の新実習棟が3月に竣工した。

3 高校以下

高校以下の教育については、桐蔭改革プロジェクトチームの下、各種WGにより、中高一貫部の教育内容検討、ICT利用教育の推進、授業の変革に伴う教員研修への参加のほか、学校行事の再検討等を行った。

ICT利用教育の推進では、電子黒板及び電子黒板機能付きプロジェクター38台を購入し、小学部、高校、中学、中等教育学校に設置して、児童・生徒の学力、情報活用能力の向上を図るとともに、分かりやすい授業の実現に努めた。

また、中学女子部では、南極授業((南極地域観測隊に当学園教師が派遣)のためにタブレットを用いた授業を行い、今後のタブレット導入について考える第一歩を踏み出した。

このほか、各学校における取り組みについては、次のとおり。

(1) 高等学校男子部

ア 教員の指導力の向上

進学成果の向上はもとより、有為な人材を育成するため、生徒が教わる授業から考える授業への意識向上を図るための工夫を凝らした。そのためには教員の自己研修が重要であり、「職員研修WG」等により内外の授業参観が活発化した。また、各校に設置された電子黒板による活用方法の研修など指導力の向上を図った。

イ 英語教育の向上

英語力向上の強化を目指し、英検、TOEIC、TOEFLなどの各種検定の受験を進めた。英語教育機器は、従来のLL教室での利用に加え、電子黒板が実際の授業で使われはじめるなど、きめ細かい指導を行った。生きた英語に接する場として英語村が開設されたことにより、英語会話能力の向上が期待される。

ウ キャリア教育の推進

キャリア教育については、各学年で講話、相談会などが行われた。大学の選択、受験勉強、大学生活、社会人の経験などがテーマとなり、生徒が自分の将来を考える貴重な機会となっている。9月には、男女高校3年及び中等6年の生徒を対象に、社会の第一線で活躍している卒業生や保護者、本大学の先生方を講師に迎え、それぞれの立場から、将来に役立てようとするキャリアガイダンスの一環として「フロンティアセミナー」26講座が開催された。

エ 高校・大学の連携の強化

男子理数科の課題研究、女子理数コース、中等教育学校のグループ研究では、桐蔭横浜大学教授陣等の指導の下、専門分野の研究の一層の充実と、併せて発表の機会をもつことによってプレゼンテーション能力の養成を図った。理系、文系ともテーマが選べるため、生徒が将来の進路を考えるうえで貴重な経験となった。

オ その他

第93回全国高校ラグビーフットボール大会において、準優勝した。全国高校総合体育大会では、個人において柔道100kg超級で藤井靖剛(高校3年)が準優勝したほか、剣道では、田中芳秀(高校3年)が3位となった。

(2) 中等教育学校

ア 大学入試実績

昨年度の大学入試については、東京大学合格者が12名であり、2年連続で二桁の合格者を出すことができた。東京工業大学、一橋大学、京都大学、国公立大学医学部の現役合格者数の合計は23名で、在籍数の13.3%を占めた。また、早稲田大学、慶應義塾大学のどちらかに現役合格した生徒数は、48名で在籍数の28%を占めるなど、4人に1人が早慶に合格することが定着している。国公立・私立を問わず、医学部に合格した者は15名8.7%、国公立大学現役合格者は、36名20.8%で例年の数値である約2割を確保した。

イ 学習指導・進路指導の実施

(ア) 検定試験への取り組み

英検・数検・国語力検定への取り組みを積極的に推進している。特に英検は、開校以来の英語学力向上のために「全員が5年終了時で2級以上を取得する」を目標に掲げており、成果が表れてきている。1期生の35.2%から、徐々に増加していき平成25年度5年生（9期生）は、71.4%になるなど7割を超えた。このほか、帰国生を中心に“TOEIC IP TEST”を学校で受検させた。

(イ) キャリア教育・卒業生との交流

前期課程では、卒業生社会人によるセミナーを実施した。後期課程では、卒業生大学生を招き、「少人数グループ別ミーティング」「体験談を聞く集会」「夏期校外特別講習チューター」により、学習面や大学生活全般を中心に、それぞれアドバイスを受ける機会を設けた。また、「大学訪問」では生徒たちが主要国公立大学の卒業生を訪ね案内してもらうなど、生徒たちの学習意欲喚起を図った。このほか、昨年度には、中等3年生を対象として、「職場訪問・研修」を実施した。20班に分かれ、教員が引率して卒業生が働く多方面の職場を訪問、業務内容の説明のほか、作業体験や卒業生からのアドバイスや激励を受けた。生徒はもとより、保護者や教員にも好評の企画であり、今後も継続していく。

(ウ) 学年ホームルームを活用した小テストの実施

基礎学力定着のために、英語・数学を中心に、毎週ホームルームで小テストを計画的に実施した。全学年での取り組みであり、基礎学力定着のための指導として定着している。

(エ) 生活指導・マナー向上活動の実施

身だしなみについては、整髪やネクタイの適切な着用を心がけるよう指導した。また、全学年が、定期的に学年集会を開き、マナーやルールの順守やいじめ問題に触れ、精神的成長を促す目的で、さまざまな話をする機会を多く持った。マナー向上活動では、前期課程で教員指導のもとで、生徒会、風紀委員会が「食堂マナー向上」キャンペーンや「朝の挨拶」運動を定期的の実施した。また、生徒会、社会活動委員を中心に、「あしなが学生募金」活動に参加するなど、ボランティア活動を行った。

(オ) カナダ語学研修の実施

3年生と4年生の希望者80名は、年度末に11日間の日程で、英語力向上、異文化体験、英語学習への意欲喚起を目的としてカナダ・バンクーバーでホームステイしながら語学学校に通う、語学研修を実施した。次年度からは、3年生は英検準2級以上取得の者、4年生は英検2級以上取得の者という条件をつけ、平素の学習意欲喚起にもつなげる。

(3) 中学校男子部

ア 学習指導の実施

(ア) 昨年度の3年生より、国語力の向上を目指し授業システムを一部改善している。従来、「国語」として一括、週4.5時間（0.5時間＝隔週）で実施していたところを、国語①、国語②に分離、前者はHR授業で週2時間の現代文系と隔週の図書室授業を実施、後者は週2時間の習熟度別クラス（LR）で古

典系の授業を実施した。従来の英語系・数理系LRに加え、古典もLRで実施することで、更に授業にメリハリができ、生徒も意欲的に取り組むことができた。

(イ) 図書室における読書指導を、全学年で実施した。単に図書の貸出というだけでなく、同指導により国語力・文章力の向上に寄与した。

(ウ) 正規の授業の充実と並行して、成績上位者・成績不振者それぞれの学力向上を目的として、各種講習を実施した。3年生は8月上旬に長野・志賀高原で成績上位者講習を行ったほか、12月中旬には全生徒を対象に、高校内進入学試に向けた講習を実施、1・2年生についても夏期研修期間を利用して各種講習を実施した。また各学年とも、放課後に「勉強会」と称して任意の講習を実施し、学力の向上を図った。

(エ) 英語検定は、数年前より、2級（1次試験）以下、すべての級を校内で受検できるようにし現在に至っているが、これにより受検率・取得率ともに向上している。

(オ) 中学棟1階の全普通教室（11室）に電子黒板を配備したことにより、当該機器を使用してのICT教育を開始した。

イ キャリア教育の実施

中学2・3年（同女子部及び中等教育学校2・3年を含む）を対象として、生徒に将来、社会人、職業人として自立していく上で、学習の課題や、目標を明確にし、自主的に勉学させることを目的に「フロンティアセミナー・ジュニア」が行われた。各分野の卒業生による講演、キャリアガイダンスなど37講座が行われた。

ウ 行事への取り組み

1年では、入学してから2か月経った6月上旬、学校生活を過ごすうえで、寝食を共にして級友間の親睦を深め、集団生活の基本的ルール・マナーを学ぶことを目的として2泊3日による校外宿泊研修（新潟・津南高原）を行った。

また、1月初旬に3泊4日で、1年生は妙高高原、2・3年生は蔵王高原において、スキーの技術向上、総合学習、集団生活力の向上を目的としたウインターキャンプを実施した。

エ 地域・社会貢献の実施

(ア) ボランティア活動として、随時学園周辺の清掃活動を実施、特に2月の2回に亘る大雪の際には、軟式野球部が近隣町内の雪かきに出動、高齢者の多い地元自治会より感謝された。

(イ) 緑の羽根募金に全校で取り組んだほか、生徒会執行部を中心に「あしなが学生募金」にも参加、社会貢献の意識を向上させた。

オ 情操教育の実施

年間を通じて、メモリアルホールや、アカデミウムの各企画に参加、演劇・音楽・絵画等の鑑賞を通して、感性・創造力を醸成した。

カ その他

サッカー部、軟式野球部、ラグビー部等が、全国大会または全国規模の大会に

出場し、上位進出を果たした。

(4) 中学校・高等学校女子部

ア 学習指導・進路指導の充実

習熟度別教育及び到達度教育の方針を生かすべく、「育て、伸ばし、鍛える」の指導方針に沿って、それぞれのレベルの生徒に対して、指導を加え、生徒一人ひとりの学力向上を図った。受け入れた生徒を6年間(3年間)粘り強く大切に育て、最後まで学習指導・生活指導に取り組んだ。結果として、女子生徒の大学合格率は、理数コース 79.2%、普通コース 87.3%、女子全体 83.0%となった。

イ 女子部の業務改革

女子部における種々の問題を検討するとともに、次の50年を見据えたさらなる進化を目指し、ワーキンググループ(一貫教育・学校行事・キャリア教育)を立ち上げ、改革案の提案により実施できることから実行した。

ウ 南極授業等の実施

中学1年では、総合学習のテーマを「自然環境について考える」とし、入学直後から学習に取り組む。地球の歴史や大陸移動説のレクチャーを受けたり、南極の自然に関する調査レポートを作成した。本番の授業の予習レクチャー「季節ごとの太陽の見かけの動き」を受け、「学園での太陽の動き」を記録した。2月の本番の授業は、「世界4地点同時中継」という壮大なプロジェクトとなる。南極昭和基地・アフリカのガーナ・北欧スウェーデン、そして本学園の4地点を同時に結んで太陽観測結果を見せ合い、貴重な体験とともに大きな感動が生まれた。南極授業(南極地域観測隊に当学園教師が派遣)に伴い、タブレットを1年生全員に貸与し、その他の授業でも使用した。

エ 体験型英語研修の実施

春期研修期間の3月末、2泊3日で中学2年生の希望者25名が、福島県にある体験型英語研修施設ブリティッシュヒルズにおいて英語研修を行った。単なる英語研修だけでなく、新たな発見、自信、交流を作り出した。

オ オープンスクールの実施

中学校女子部では、受験生本人に来校してもらい、授業体験(15講座)・クラブ活動体験(15講座)を通して、当学園女子部を知ってもらう目的で、6月1日にオープンスクールを開催した。小学校4年生以上の児童には授業・クラブ体験で、女子部の雰囲気を感じてもらい、その保護者には学校説明・個別相談で、女子部をPRした。多くの児童・保護者が参加した。

カ 情操教育の充実と社会的マナーの啓蒙

ホール行事(音楽・演劇・映画)や各種展覧会の芸術作品を鑑賞させることで感性を育成した。また、朝と下校時のHRを二人の担任で実施し、社会で取り扱われている出来事・問題を題材として、社会的マナーやエチケットの指導を行い、社会でバランスのとれた行動ができるように啓蒙した。

キ その他

(ア) 校舎施設の安全対策及び整備として、避難経路を見直したほか、非常口外の

3・4階の窓ガラスに、ガラス飛散防止フィルムを貼付した。また、3・4階テラス広場床防水改良工事を行った。

- (イ) 柔道部は、全国高等学校柔道選手権大会において団体で準優勝した。個人では、全国高校総合体育大会において嶺井美穂(高校1年)が63kg級で準優勝、内尾真子(高校3年)が52kg級で3位に入賞、また、嶺井は、千葉県で開催された講道館杯全日本柔道体重別大会においても準優勝した。この他、ダンス部が、東京で開催された全国中学高校ダンスコンクールにおいて第3位となった。

(4) 小学部・幼稚部

ア コンクール入選・入賞

- (ア) 「第57回全国学芸サイエンスコンクール 絵画部門 小学生の部」で4年生児童が金賞1席(文部科学大臣賞)、2年生児童が入選1席に選ばれた。小学部も学校特別奨励賞に選ばれた。

- (イ) 平成25年度「神奈川県夏のすいせん図書読書感想文コンクール」で、2名(2・3年生各1名)が入選(優秀賞)した。

- (ウ) ロボットクラブ(小6児童と中学・中等生の合同チーム)が東日本第2ブロック予選を3位で通過し、全国大会に出場(9年連続)した。

イ 一貫教育カリキュラムのさらなる系統化と精選

- (ア) 小学部教員が中学・中等の授業見学を行い、一貫教育カリキュラムのいっそうの系統化を図るとともに「考える授業」の実践準備を進めた。

- (イ) 中学・中等へ繋がる生活力・学習力の基礎・基本を徹底させ、とくに主要教科においては、内部進学を前提とした基礎学力充実を目指した学習指導を推進した。

- (ウ) 内部進学システム(小学部から中学・中等へ)の改訂を検討した。

ウ 教員研修と児童指導の充実

- (ア) 校内外における研修会に積極的に参加し、授業力・指導力の向上を図った。

- (イ) 学年主任と副担任を設置し、複数教員による学年・学級経営を行った。

エ 広報活動の強化と小学部入試日程

- (ア) 校内外の学校説明会において学園一貫教育の良さをPRするとともに、塾・幼児教室対象説明会を昨年度に引き続き校内で実施した。

- (イ) 塾主催の模擬試験会場として小学部校舎を2回提供した。(説明会実施)

- (ウ) 小学部入試(第2・3回)の日程を12月までに実施して入学者の確保を図った。

オ その他

- (ア) 電子黒板の導入を開始した。(2年生4教室の設置と移動式3台)

- (イ) PC室のコンピュータ50台を新規に入れ替えた。

(幼稚部)

ア 小学部教育との系統化

- (ア) 内部進学を前提とした一貫カリキュラム(国語・算数)のさらなる系統化を進めた。

- (イ) 小学部教員による幼稚部特別授業(図工科・音楽科)を年少・年長ともに各

1回実施し、幼小の教育連携を強化した。

イ 保育環境の整備（暑さ対策）

園舎1階ホールにもエアコンを設置し、園庭用の日除けテントを整備した。

4 各部門

(1) 情報ネットワーク部

ア 学園無線 LAN 環境の実験

女子部中学1年対象の南極授業を実施するに当たり、業者の協力を得て、教員分を含む150台のタブレット（初期型）を半年間、ほぼ無償提供を受け、その期間を利用して、タブレットPCの授業での活用を実験的に実施した。そのために、女子部中学1年の教室に、無線ポイントとして、エアーマックを設置したほか、一斉大量データ受信実験やグーグルドライブを利用したデータの共有、共同作業の実験を行った。この結果、タブレットPCの本格導入の基礎的なデータが得られた。

イ 大学職員・中学・高校・中等教育学校の教職員 PC の更新

大学においては、事務職員の業務使用PCをWindows7の機器に更新した。高校以下においては、現在貸与しているPCで、5年以上たっている2007年度に貸与したPCと現在個人PCを使用している教職員で、貸与PCを希望しているものを合わせて更新した。

ウ PC教室等の整備

小学部第1校舎PC教室、進学棟PC教室と女子部PC教室及び女子部科学ギャラリーのWBTシステムの機器更新と高校男子等のPC教室（711教室）のソフトウェア環境を現在の標準にそろえる事業を実施した。

エ 運営会議のペーパーレス化

運営会議のレジメシステムを構築し、会議のペーパーレス化を実現し、かつ全教職員に会議の情報を発信できるようにした。

(2) 一貫教育推進部

学園ホームページについては、幼稚部から大学、さらに関連施設にいたるまで、法人全体としての一層の統一感をもたせるコンセプトのもとで制作した。特にFacebookでは、学園のトピックを日常的に発信し、対外的な広報活動のひとつの柱として取り組んだ。月間広報誌「桐蔭学園報」では、今まで以上のビジュアル化を目指し、幼稚部から大学までバランス良く掲載するよう心がけ、内部広報活動に寄与した。以上のような学園広報活動の一環として、対外メディアへの対応も行った。特に高校ラグビー部全国大会準優勝や南極授業におけるテレビ・新聞等の取材対応、また、テレビ東京による本校体育科を取り上げた企画において学園側窓口としての業務を行った。

(3) 入試対策広報部

多くの優秀な児童・生徒の確保を目指し、本学園をよりよく知ってもらえるよう5月から12月にかけて学校説明会・入試説明会等本校主催の会を数多く実施し、中学・高校合わせて5,067名の受験生・保護者の方が参加した。特に、前年度から始めた女子オープンスクールは好評であったことから、25年度は、

強い要望のあった男子も同時開催した。当日は生徒の協力を得て実施したが、共に大変好評であった。また、受験生の動向把握のためには欠かせない塾・公立中学校への訪問や連絡を一層強化するとともに、今年初めてミニナイト説明会を校外で実施するなど様々な取り組みや事業を展開して志願者増を図る広報活動を推進した。

(4) 健康管理センター

ア 健康管理の徹底

4月、児童・生徒・学生及び教職員の定期健康診断を実施した。児童・生徒・学生に関して、健康診断結果からの有所見者に対して運動制限などの指示を行ったほか、授業担当者への的確な連絡を行った。

イ 行事に伴う救護体制の確立

各学校で実施している校外宿泊研修・ウインターキャンプ・学園体育祭に際しては、協力医師のほか、持参医薬品の手配・準備等を行い、当日は現地に帯同し、協力医師のサポート、救護係の教員と協力して怪我人・病人の応急処置・看病に当たった。

(5) 文化センター

鶴川メモリアルホールにおいては、計50回の文化・芸能鑑賞会を実施（内訳：音楽鑑賞会18回、演劇公演14回、映画鑑賞会16回、古典芸能鑑賞会2回）し、各鑑賞会とも対象学年別に全児童・生徒が6回以上の公演を鑑賞した。また著名卒業生による講演会「がんばれ!!桐蔭学園」の開催や、生徒教職員OB等が参加する「第九の会」定期演奏会を行った。

桐蔭メモリアルアカデミウムにおいては、芸術作品鑑賞展示会を3回開催したほか、幼稚部から大学までの全校児童・生徒・学生からの公募作品を展示した「Toin Art Collection 2014 生徒作品展」を開催した。また、戦前の陪審法廷で戦後は軍事法廷としても使用され、同アカデミウムで年間を通じ公開されている「旧横浜地方裁判所陪審法廷(移築復元)」を含め展示会等来館者は年度を通じて約1万8千人を数えた。

(6) その他（国際交流の推進）

アメリカの高等学校との生徒の相互派遣により、語学研修、国際社会への視点の育成等を推進する目的で実施している国際交流では、平成25年度、名門ハイスクールであるアンドーヴァー校など、米国東海岸を主とした高等学校3校に6月、7月の5週間、21人(中等5人、男子高校4人、女子高校12人)が海外研修を行った。また、アメリカ、セントポールズスクール等4校からは、12人が交流生として桐蔭学園での勉学や意見交換等の学生生活を送った。

第 3 財務の概要

(1) 連続資金収支計算書 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位 千円)

科 目		H24年度	H25年度
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	8,816,973	8,399,918
	手数料収入	173,158	166,328
	寄附金収入	228,905	303,448
	補助金収入	1,692,087	1,679,569
	資産運用収入	15,667	15,938
	資産売却収入	0	10
	事業収入	179,714	184,233
	雑収入	482,590	471,054
	借入金等収入	119,160	606,920
	前受金収入	1,989,192	1,926,466
	その他の収入	311,136	418,376
	資金収入調整勘定	△ 2,447,096	△ 2,419,807
	前年度繰越支払資金	6,262,404	5,956,144
	合 計	17,823,890	17,708,597
支 出 の 部	人件費支出	7,965,603	7,873,480
	教育研究経費支出	2,005,544	2,106,803
	管理経費支出	486,307	497,680
	借入金等利息支出	104,976	69,733
	借入金等返済支出	1,120,840	1,082,020
	施設関係支出	42,727	588,900
	設備関係支出	174,924	189,313
	資産運用支出	0	0
	その他の支出	809,194	841,089
	資金支出調整勘定	△ 842,369	△ 978,449
	次年度繰越支払資金	5,956,144	5,438,028
合 計	17,823,890	17,708,597	

(2) 連続消費収支計算書 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位 千円)

科 目		H24年度	H25年度
消 費 収 入 の 部	学生生徒等納付金	8,816,973	8,399,918
	手数料	173,158	166,328
	寄附金	246,971	324,325
	補助金	1,692,087	1,679,569
	資産運用収入	15,667	15,938
	資産売却差額	0	0
	事業収入	182,477	178,542
	雑収入	497,681	486,582
	帰属収入合計	11,625,014	11,251,202
	基本金組入額合計	△ 1,020,854	△ 1,158,941
消費収入合計		10,604,160	10,092,261
消 費 支 出 の 部	人件費	7,894,344	7,903,387
	教育研究経費	3,434,857	3,527,788
	管理経費	657,789	663,743
	借入金等利息	104,976	69,733
	資産処分差額	206,745	122,249
消費支出合計		12,298,711	12,286,900
当年度消費収入超過額		△ 1,694,551	△ 2,194,639
前年度繰越消費収入超過額		△ 24,038,032	△ 23,814,113
基本金取崩額		1,918,470	444,193
翌年度繰越消費収入超過額		△ 23,814,113	△ 25,564,559

(3) 連続貸借対照表 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位 千円)

	H24年度	H25年度
資産の部		
固定資産	54,324,555	53,411,671
流動資産	6,480,576	6,004,080
資産の部合計	60,805,131	59,415,751
負債の部		
固定負債	5,080,358	4,625,148
流動負債	4,255,377	4,356,904
負債の部合計	9,335,735	8,982,052
基本金の部		
第1号基本金	74,374,619	75,089,368
第4号基本金	908,890	908,890
基本金の部合計	75,283,509	75,998,258
消費収支差額の部		
翌年度繰越消費支出超過額	23,814,113	25,564,559
消費収支差額の部合計	△ 23,814,113	△ 25,564,559
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	60,805,131	59,415,751